

## 挑む私学



瀧野川女子学園中学高等学校

クリエイティブティの  
いろはを学ぶ中学時代

何と言っても、瀧野川女子中高の教育で特徴的なのが「**創造性教育**」だ。同校が独自に開発したこの学びは、中高6年間を通しておこなう。目的は、創造性と起業家精神の養成だ。

まず中1の時は「**理想の街を創ろう**」をテーマに、

デザイン思考を学び、ブレインストーミング、フィールドワーク、ユーザーインタビューをチームごとに実施。最終的には理想の街をカタチにすべく、ジオラマを創る。

「アイデアを生み出したリ、空想して終わるのではなく、実際に手を動かしてジオラマを創るのが大きなポイントです」と山口氏。

女性が望む人生を手に入れられる学校を創りたいとの想いを胸に、1926年に創立された瀧野川女子学園中学高等学校（東京・北区）。開校以来、女子校を貫いてきた同校は、2010年より実学に基づいた教育を主軸に置くようになった。なかでも特徴的なのが2016年から開始した「創造性教育」だ。この学びがどのような成果を挙げているのか、理事副校長の山口龍介氏に話を聞いた。

これにより、生徒たちは頭で考えたことを具現化する難しさを体感する。

時には、かなり作り込んだ段階でやり直しを決断するチームもあるといい、子供たちの真剣ぶりがうかがえる。ジオラマ創りを始めてからは、「行動が伴うようになった」「我慢強くなった」「積極的にになった」など、家庭でも子供の変化はみられるようだ。

中2でチームでロボット創りに取り組み、中3の時は自由なテーマに基づいて個人研究をおこなう。

ある生徒は家の下駄箱の乱雑さが気になったため、ポスター作りに挑戦。どのポスターが効くかを試すうちに段々と広告に興味を持つようになるなど、個人研究を通じて自然に職業に目を向けることができる。好

きなことを仕事にすれば、人生がより豊かになる。これが、学校側の狙いだ。

本格的な事業を通して  
様々な気づきを得る

高1の時は、創造性教育の一環として、「**商品企画コンペティション**」に取り組み。自分の「欲しい」と世の中の「欲しい」を結びつけ、これまで

なかったような斬新な商品企画する。まずはグループでワークショップをおこない、自分と社会の「欲しい」を吟味。次に学園祭への出店計画を立て、最後はチームで商品作りに挑み、コンペをおこなう。

そして高2の時、今まで学んできたこと



創造性教育のスタートとなる中1時の「理想の街を創ろう」の一幕

の総括として、より実践的な「**事業化実習**」に挑む。1組15人程度のチームを編成すると、早速、資本金の額を決め、それぞれが自分の小遣いを持ち寄って出資

合格実績4倍！  
創造性教育の成果が実る

創造性教育の仕上げとなる高3の時は、大学以降のキャリアを描いていく。もちろん大切になってくるのが受験だが、例えば総合型選抜や公募推薦を狙う生徒は、創造性教育の成果を活かして明確なキャリアプランとビジョンを立てているため、やりたいことや自分の強みが明確で、志望理由書や、今や可否を最も左右する口頭試問中心の面接試験にも非常に強い。

「先生たちとの距離が近いので何でも相談できますし、いろいろなバックアップしてもらえて安心です」と話す生徒は多く、そうした親身な指導によって、面接では自分をありのままに表現。その結果、たくさんの

生徒が志望大学への切符を手に入れている。驚くことに、創造性教育を開始してから初の中高一貫の卒業生が誕生した昨年3月の大学合格実績は、前年比の約4倍となった。

創造性教育の旗振り役である山口氏は「東工大でロボット研究をしていた私は、世界のトップ大学の動きを見て、実学主義の大切さや、教育の在り方を見直す必要性をひしひしと感じていました。この学校でそれを実現でき、結果に結びついていることを大変嬉しく思います」と笑みをこぼす。

最後に塾関係者へメッセージをくれた。「一人ひとりにフォーカスが当たる時代となりまし



高校に入ると商品企画から販売に至るまで体験し、起業家精神を育てていく

た。大変ではありますが、子供にとっていい時代だといえますし、我々教える側にとってもやりがいのある時代です。特にビジネスと向き合っている塾の皆様は、

をする。模擬会社を立ち上げたなら、経営、マーケティング、制作、財務など役割を分担し、学園祭でオリジナル商品を販売すべく製品化やマーケティングを進めていく。

例えば「傘ストッパー」を作ったチームはYouTubeに広告動画を制作、公開し、学園祭で何と約22万5千円もの売上を計上。利益は15万2千円、現金成長率は254%となった。資本金が2倍、3倍と増えるのを目の当たりにして、株式や資本主義の仕組みを理解していく。



副校長の山口龍介氏

そして何よりの発見は、「**自分について**」だ。自分にはどういう強みがあり、どう活かせるのか。普段見えなかった大切なことがよく見えるようになる。

「普段は控えめな製造担当の子が、全校発表会で技術について堂々と発表するなど、この実習を通して生徒たちは大きく成長していきます」と山口氏。

リアルなビジネスさながらの  
創造性教育で自分を発見

普通の学校の先生とは違う視点を持ってらっしゃるので、子供たちの成長の大きな助けになると思います。生徒一人ひとりの個性を引き出し、伸ばしていけるよう、お互い連携して頑張りたいです！」